

2022 年度 第 2 回全国健康保険協会愛知支部評議会議事概要

日 時：令和 4 年 10 月 18 日(火) 13：00～15：00

場 所：全国健康保険協会愛知支部 第一会議室

出席者：石川評議員、河合評議員、坂本評議員、竹内評議員  
宮武評議員、山口評議員（議長）（五十音順）

事務局：芦田支部長、山本企画総務部長、後藤企画総務グループ長  
松岡保健グループ長、角川レセプトグループ長、名波業務第二グループ長  
藤田企画総務グループ長補佐、柴本企画総務グループ長補佐  
美川スタッフ

【2023 年度平均保険料率について】

<事業主代表>

- ・10%維持はやむを得ないと思うが、医療費と賃金の構造的な問題があるのであれば、それに手をつけないと解決しないのではないかと。
- ・収支のバランスをとるためには、高齢者の負担割合や医療費もどこまで保険適用するかなど制度的な議論が必要。

<被保険者代表>

- ・結論的には10%維持と思う。しかし、雇用保険料率アップなどもあり、企業経営の観点からは健康保険料の引き下げの必要もあるのではないかと。

<学識経験者>

- ・10%維持が現実的な結論かと思うが、この厳しい状況をさらに広報していかないと、意識改革に繋がらないのではないかと。
- ・10%維持には賛成である。ただし、受益者負担、リスク細分化の観点から負担割合を上げるなど、別の考えが必要ではないかと。
- ・10%を超えないように極力維持していくしかない。制度全体を動かしていかないと保険料の操作だけでは、いかんともし難い。

【令和 2 年度から令和 3 年度にかけての医療費の状況について】

試算の段階で 5 年度都道府県保険料率が近年にない引き上げの見込であることを伝えたくて、2 年度から 3 年度の医療費の状況について説明した。

<事業主代表>

## 機密性 2

- ・医療費について、愛知県は伸びているが、大都市で感染者が多いところは同じような傾向なのか。愛知県だけ伸びているのか。

(事務局)

→大都市は同じような傾向にある。これらは来年度の保険料率が上がる支部と理解している。

- ・全国的に同じ感染対策の中で、保険料率が上がるとしたら、もう少しきちんと議論をすべきかと思う。
- ・コロナは特殊要因であり、保険料率算定に反映させるべきではない。

<被保険者代表>

- ・保険料を負担する従業員や事業主は、生活習慣病予防等に努力しても仕方がないという諦めのイメージを抱くのではないか。
- ・検査費は国負担と聞いたが、コロナ関係の医療費が増えたのはこの部分か。

(事務局)

→検査費用は公費だが、初診料等は自己負担がある。7割については、いわゆる保険請求で保険者が払っている。

<学識経験者>

- ・引き上げ率を実際の金額にすると負担感は大きくないかもしれないが、保険料率の決め方が理解されないまま進んでしまうのは決め方に大いに問題があると思う。
- ・大規模支部でインセンティブが効きにくいというのに、コロナと合わせて引き上げというのはさすがに受け入れ難い。
- ・コロナはほぼ災害のような特殊ケースなので、それに基づいて保険料が決められることについては異議を唱えたい。

### 【2023 年度支部事業計画及び支部保険者機能強化予算の策定について】

<事業主代表>

- ・保険会社に社員の健診結果から半数近くが将来生活習慣病の恐れがあるという予測資料を提供してもらった。経営層に対して未来が予測できるものを提供するとインパクトがあるのではないか。
- ・動画を作成する場合は、誰が演じるかがポイント。

<被保険者代表>

- ・「メタボ防止」よりも「スリムになる」とか、「上手な医療のかかり方」よりも「お得な受診方法」といったように、関心が高まるよう、表現を工夫した方がいい。
- ・メタボ防止のアドバイスシートは、メタボを解消するために何をやったらいいのか、具体的な解決策を記載するといい。

【更なる保健事業の充実について】

<事業主代表>

- ・費用対効果がどうだったかということを開示してもらいたい。

【全体を通してのご意見・ご質問】

<事業主代表>

- ・マイナンバーカードが保険証に変わるという報道があるが、経費や手間が省略できるのか。

(事務局)

→実現すると保険者としての事務の軽減にはつながる。ただ、課題として、医療提供側の設備・ランニングコストや高齢者の IT に関するリテラシー等があると思う。

特記事項

- ・傍聴者なし
- ・次回評議会は令和 5 年 1 月開催予定